

展示・収蔵品より

美を知る

374

地球上に生命が誕生して約40億年。生物は絶えず絶滅と新しい種の誕生を繰り返してきた。現在、地球上には10億〜60億種の生物がいて、それはこれまで地球に誕生した全生物種のたった1%に過ぎないと推定されている。つまり、約46億年の地球の歴史において実に約1千億〜6千億種の生物種が地球上に出現し、絶滅したことになる。

では、ここで「秋田にいた絶滅種」の中からひとかけらを取り上げてみたい。

ナウマンヤマモモ

ナウマンヤマモモ（コンプトニア属）は、シダのように細長くギザギザに切れ込んだ葉形が特徴的なヤマモモ科の植物である。日本各地の新第三紀中新世（約2300万〜500万年前）の地層から温暖系の植物化石とともに化石として発見されている。県内では、仙北市西木町（写真1）や由利本荘市矢島町（写真2）などで見つかっている。

絶滅の正確な時期や原因は明らかになっていないが、新第三紀後半以降地球規模の寒冷化や、降水

特別展「わけあって絶滅しました。展」

姿消した生物、秋田にも

環境の変化などにより生育域を縮小し、ついには日本から姿を消したものと推測される。

ところで、この絶滅植物の名前に着目された方もいるだろう。ナウマンとは1875年に21歳で来日しさまざまな業績を上げた日本地質学の創始者ハイリッヒ・エドムント・ナウマン（1854〜1927年）である。1883年

当時、日本の地質調査所で働いていた彼が、下松木内村（現仙北市西木町松木内）の地で化石を見つけ、ナウマンヤマモモと命名した。

温暖湿潤な気候に適した植物であるナウマンヤマモモの発見は、現在の東北地方より温暖で湿潤な気候の時代が秋田にあったことの証明となった。こうした経緯からナウマンヤマモモの化石は2016年、日本地質学会が制定する「秋田県化石」の一つに選ばれている。

ナウマンゾウ

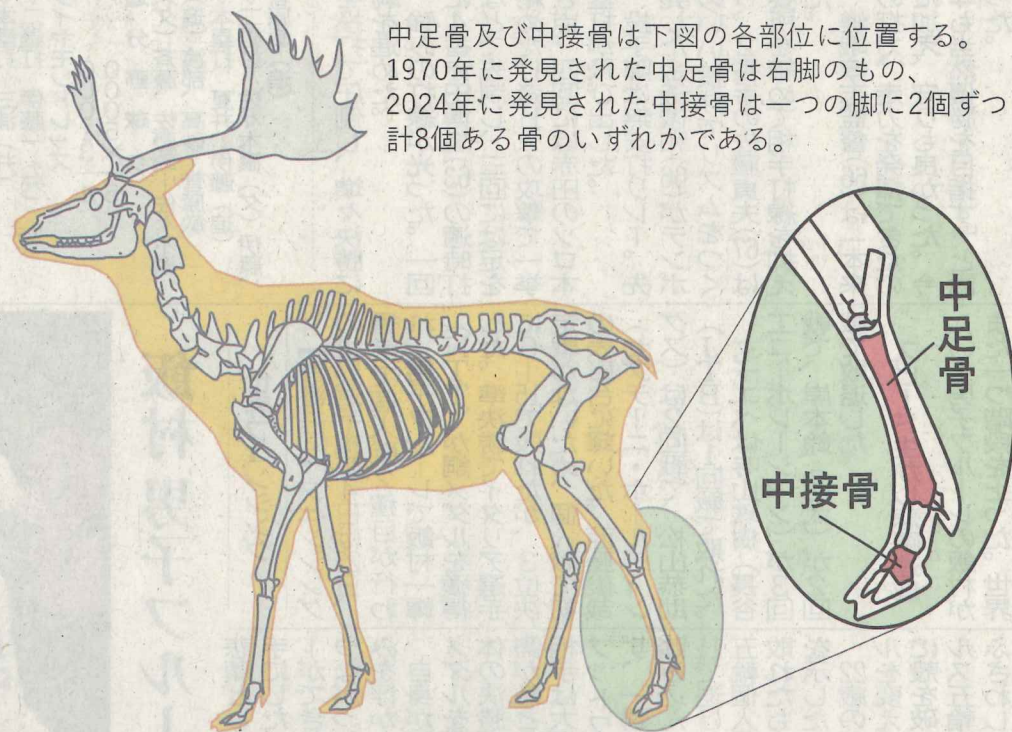
ナウマンゾウは新生代第四紀更新世（約36万〜3万3千年前）に生きていたと考えられ、このゾウの化石もまた日本ではナウマンが発見の先駆者である。県内では湯

沢市皆瀬産の臼歯化石（写真3）の他、男鹿市や潟上市などからも見つかっている。

ヤベオオツノジカ

オオツノジカは第四紀中期更新世から前期更新世にかけて生息した代表的な大型哺乳類である。ヨーロッパ北部から東北アジアにかけて複数の属が分布し、日本にはヤベオオツノジカが生息していた。ヤベオオツノジカの化石は国内各地で発見が報告されているが、本県では発見例が少なく2件が報告されているのみである。

県内で化石が初めて発見されたのは1970年9月。男鹿市脇本で当時の高校生2人が発見した。この時見つかったのは、右後脚の中足骨（写真4、図解参照）であった。2例目は2024年9月。



中足骨及び中接骨は下図の各部位に位置する。1970年に発見された中足骨は右脚のもの、2024年に発見された中接骨は一つの脚に2個ずつ計8個ある骨のいずれかである。

骨格図：共立出版『野尻湖の発掘』（野尻湖発掘調査団、1975年5月）を基に作成

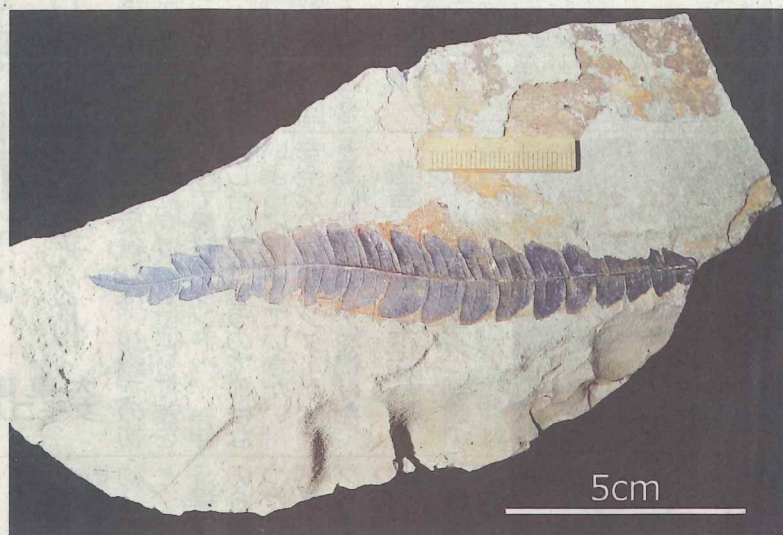


写真1
ナウマンヤマモモの化石 仙北市西木町

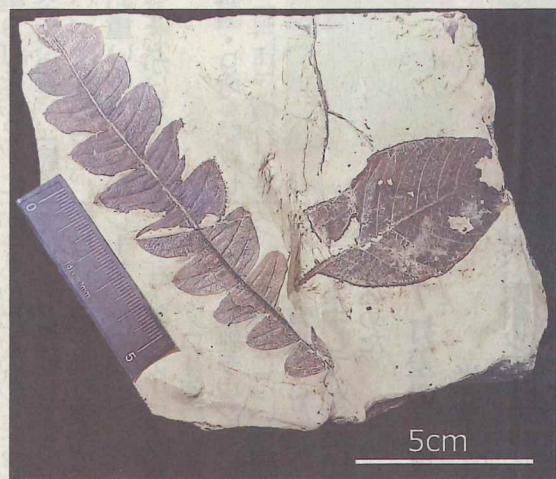


写真2
ナウマンヤマモモの化石 由利本荘市矢島町

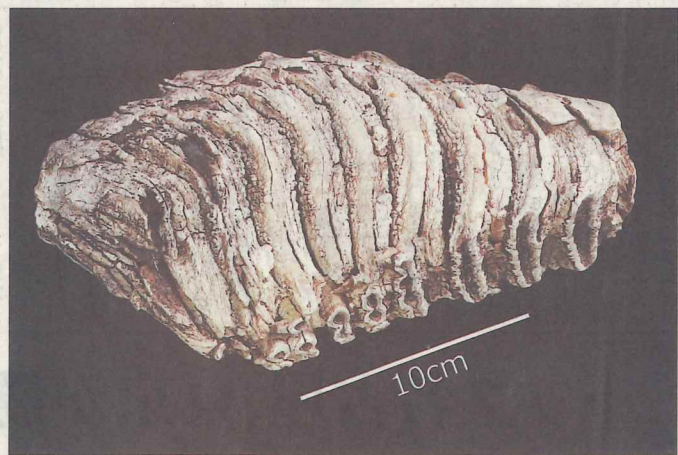


写真3
ナウマンゾウの臼歯化石 湯沢市皆瀬

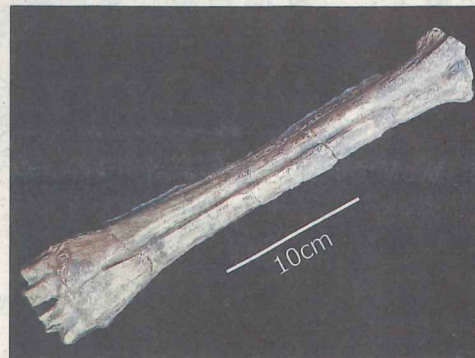


写真4
ヤベオオツノジカの化石・右後脚中足骨（レプリカ） 男鹿市脇本



写真5
ヤベオオツノジカの化石・中接骨 男鹿市五里合

男鹿市五里合で当時小学6年生の双子の兄弟が中接骨（写真5、同）を発見した。

ヤベオオツノジカといえは、その大きな角が特徴的であるが、県内ではこれまで角の発見の報告はない。もしかしたら足元に堂々とした角が眠っているかもしれないと考え、太古へのロマンをかき立てられるような気がする。

現在開催中の特別展「わけあって絶滅しました。展」では、今は絶滅した生物たちの貴重な化石や標本を展示し、さまざまな絶滅や生存の理由を紹介している。当館が所蔵するヤベオオツノジカやナウマンゾウなどの化石も併せてロビーに展示している。進化と生き残りに関する生物たちのたたかきを感じ取っていただきたい。

(県立博物館学芸主事・築地洋)

×モ 特別展「わけあって絶滅しました。展」は8月30日まで。絶滅生物の貴重な化石や標本、さわれる化石を展示しその絶滅の理由を紹介する。「優しすぎて絶滅」「筋肉ムキムキで絶滅」など驚くべき理由で姿を消した生き物たちから、生態系や地球環境について深く学ぶ。入場料は一般・大学生1200円（20人以上の団体千円）小中高生800円（同600円、要学生証）、未就学児無料。開場時間は午前9時半〜午後4時半（入場は4時）。27日、8月3、17、24日は休館。県立博物館 ☎018・873・4121